

◆研究代表者から新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。昨年は、大変お世話になりました。ありがとうございました。本年もこれまでと同様に、JDCP study へのご協力をお願い申し上げます。

本年は、いよいよ、JDCP study に登録をしてくださった 6,439 名の患者さんのすべてが、追跡 5 年を経過することになります。昨年末には、250 以上の症例報告書がドーンと事務局に届き、一同、何よりのクリスマスプレゼントと大喜びしました。これによって、追跡率は 1 年目が 92.2%、3 年目は約 80%までに到達しました。本当にありがとうございました。

私たちが高い追跡率にこだわるのは、わが国における糖尿病合併症、とくに大血管症の実態をできる限り正確にとらえたいからです。重症の合併症を持つ患者さんや死亡例などは、どうしても脱落しやすくなります。したがって、追跡率が低い場合には、重大なイベントを落としている可能性が高くなります。JDCP study がこのように高い追跡率を維持しているのは、ひとえに、多忙を極める日常診療のなかで貴重な時間を割いてくださっている全国の主治医や医療スタッフの皆様方のおかげです。幾重にも、心から御礼を申し上げます。

地道な調査を続けてきた JDCP study は、2014 年から、いよいよ解析に入ります。まず、登録時の患者背景等について基礎となる論文をまとめ、次に死亡率を算出します。そして、合併症毎に設置したワーキンググループがイベント発生について確定し、各合併症とリスク因子の解析を始める予定です。地域や医療機関別の解析も大切だと考えております。

集計されたデータファイルは、日本糖尿病学会データベース構築委員会の管理下に置かれ、貴重なデータベースとして保管されます。しかし、固く鍵をかけてしまっておくのではなく、定められた手続きを踏むことにより、多くの先生方にアクセスしていただけるようにしたいと考えております。今後どのような新しいエビデンスが生まれるか、楽しみです。本年も、JDCP study をどうぞよろしくお願い申し上げます。

JDCP study 研究代表者

東京慈恵会医科大学

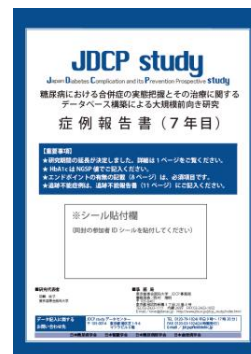
田嶋 尚子

(データベース構築委員会 委員長)

◆ 症例報告書（7年目）の発送について

7年目の症例報告書が完成しましたので、平成26年2月頃から発送させていただきます。

研究期間の延長に伴い院内等での倫理審査が必要な場合は事務局の方で適宜支援致しますので、ご連絡ください。

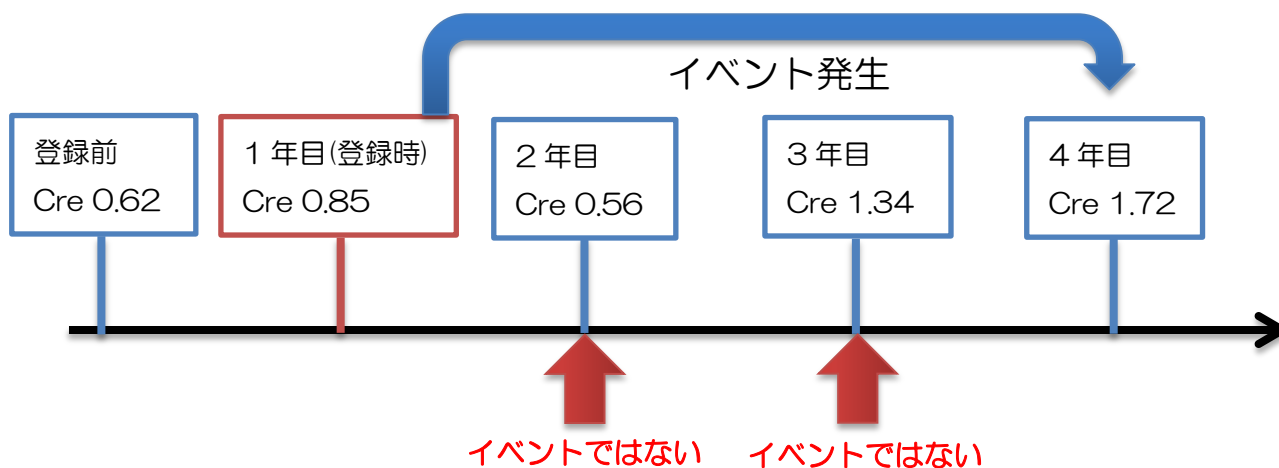


◆ 腎症のエンドポイント 血清クレアチニン値の2倍以上の上昇について

腎症のエンドポイントとして「血清クレアチニン値の2倍以上の上昇」がありますが、比較基準となる値は「1年目（登録時）の血清クレアチニン値」となります。

研究開始以前の血清クレアチニン、または追跡期間途中で一旦クレアチニン値が下がった場合の値と比べて2倍以上になってもイベント発生とはなりませんのでご注意ください。

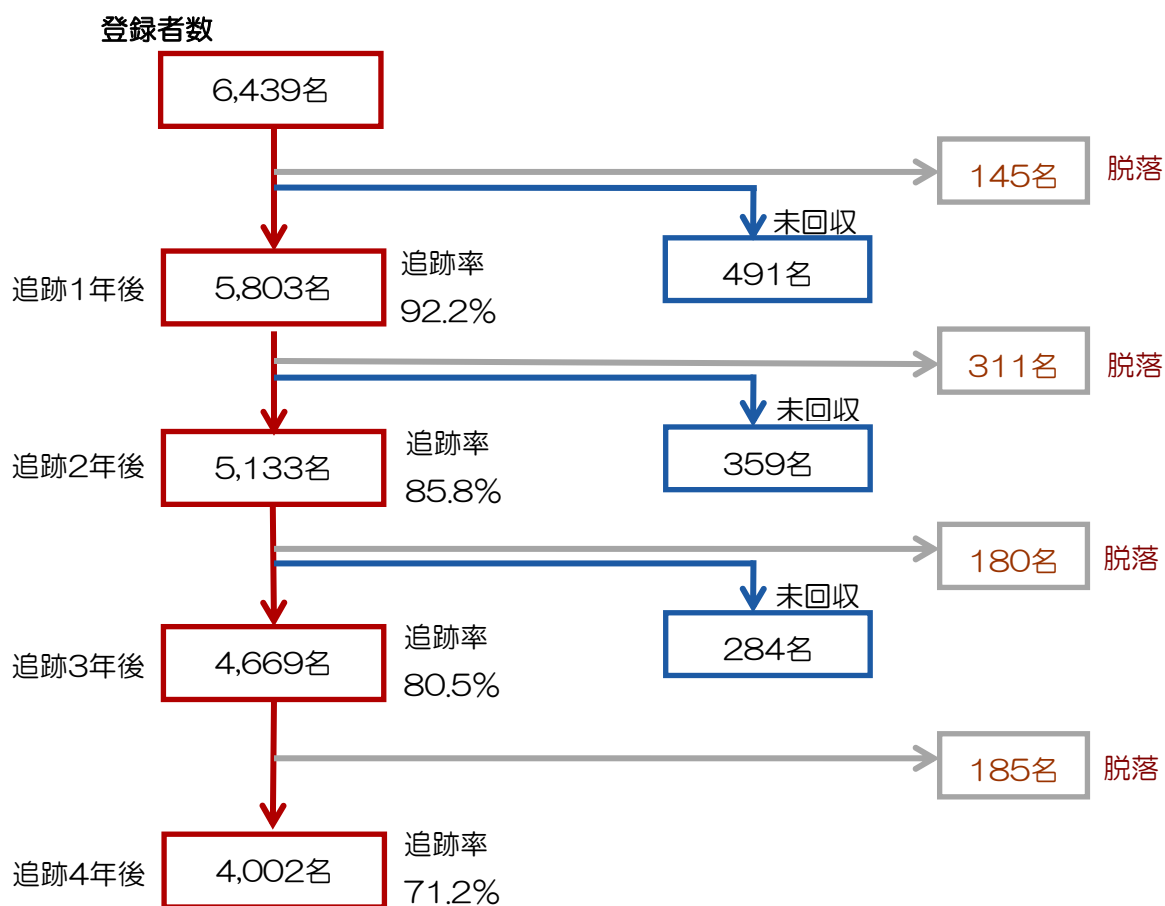
例) 登録時のクレアチニン値が「0.85mg/dl」の場合



◆ 全体の進捗状況について

2013年12月末時点における症例報告書回収の進捗状況をご報告申し上げます。

追跡1年後は 5,803症例（92.2%）、追跡2年後は 5,133症例（85.8%）、追跡3年後は4,669症例（80.5%）、追跡4年後は4,002例（71.2%）のご報告をいただいております。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。



※追跡率は分母から脱落数を引いて計算

(2013年12月末 現在)

今後とも、未回収症例はもとより、脱落症例につきましても、1例1例、あきらめずに追跡したいと思っております。事務局としてご協力できることは何でもさせていただきますので、ご連絡いただきたく存じます。

日常診療のお忙しい中大変恐縮ではございますが、諸先生方、医療スタッフの皆様方のより一層のお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

ご不明な点がございましたら、下記 JDCP study データセンターまでお問い合わせください
TEL：0120-79-1024（平日9：00～17：30）
FAX：0120-03-1024（24時間受付）